

第10回 講義ノート 文芸の中の教師像

今回は、文芸（小説、漫画、映画、ドラマ等）の中の教師像、というテーマを取り扱います。

文芸の中で教師が主人公であったり、主人公でなくても登場人物であったりすることはよくあり、皆さんもそのいくつかに目を通したり視聴したりしたことがあると思います。

小説や漫画やドラマなど文芸の中では、教師はどのように描かれているのでしょうか。それらは実際の教師と同じでしょうか、それとも大きな違いがあるのでしょうか。

さらに描かれる教師像には、何か一つのステレオタイプ（典型）、があるのでしょうか。たとえば、理想の教師像が描かれたり、熱血教師が描かれたりするのでしょうか。それともいろいろな教師が描かれているのでしょうか。

またそれらは時代とともに変化しているのでしょうか。

さらに文芸の中の教師を、読者や視聴者が読んだり見たりするのはどのような意味があるのでしょうか。そこには教師の理想像が描かれているのでしょうか。

文芸作品というものは、それを生んだ社会や人間のあり様を映し出す鏡といわれています。つまり文芸作品には、現実の社会では見えにくい部分を鮮明に描き出し、隠れている部分を明るみに出すはたらきがあります。現実の教師には隠されている部分を、教師に関する文芸は、時には誇張して描き、人々の意識にのぼらせ、「教師とは何か」ということを考えさせてくれます。時代を先取りする教師像を提示する場合があります。

文芸は、教師の学校での姿だけでなく、その生活全体を描き、人間としての教師像を提示している場合があります。

これまで日本の文芸の中で描かれた教師には、どのようなものがあるか。2つの文献からみてください。

一つは、佐藤春雄「テレビドラマから見た理想の教師」（『教職概論』学陽書房）で、昭和40年代から現代までのテレビドラマで取り上げられた教師像が、その内容の解説とともに列挙されています。（授業資料 10-1）

時代とともに「カッコよい教師」(40年代)、「人間性あふれる教師」(50年代)、「理想を追求する教師」(60年代)、「奮闘する女性教師」(平成初期)、「超個性派教師」(平成5年以降)へと変遷していると分析しています。

もう一つは原田彰『教師論の現在—文芸からみた子どもと教師』(北大路書房)で、文芸作品の教師像の意味を解説し、次に2つの小説(「兎の目」と「二十四の瞳」)について、解説しています。(授業資料 10・2)

外国の小説や映画やドラマにも、教師が主人公ないし登場するものはあると思います。たとえば、アメリカの学園ドラマ「Glee」には、高校の変わった校長や部活動の音楽教師が描かれています。(<https://ja.wikipedia.org/wiki/Glee/>)

教室での授業であれば、教師が主人公の映画やドラマや漫画を皆で一部でも鑑賞して、それについて話し合うことをするのですが、今回は遠隔授業の為、それができません。

そのため、次のようなもののいずれか参考に、文芸に描かれた教師像に関して、感じたこと、考えたこと、書いてください。

あるいは、「文芸に描かれた、どのような教師像に共感するのか」、「文芸に登場する、あつてはならない教師像は何か」、あるいは「これまで読んだ漫画やドラマの教師像についての感想」、「テレビドラマ・ドラゴン桜2を見ての感想」などでも構いません。

繰り返しになりますが、参考にすべきものとして(下記のどれか)

- ① 授業資料 10・1 (佐藤春雄)、10・2 (原田彰) の内容を読んでの感想、
- ② 教師が登場する映画、ドラマ、漫画、小説を見たり読んだりした感想
- ③ You Tube で、「24 の瞳」の予告編を見ての感想

<https://www.bing.com/videos/search?q=24%e3%81%ae%e7%9e%b3&&view=detail&mid=E7AF802E27E643B21558E7AF802E27E643B21558&&FORM=VDRVRV> 小説「24 の瞳」は青空文庫(https://www.aozora.gr.jp/guide/aozora_bunko_hayawakari.html)で無料で読むこともできます。

解答(コメント)は 200 字～1000 字程度で、KCN の「課題 提出」の欄を通して、(武内) に送って下さい。